

松本清張記念館

◆館報◆
2003. 3
第12号

わが力なきをあきらめしが されど 草の葉で織る焰文様



平成3年8月 初版
文藝春秋刊

現在入手できる本

松本清張全集 第9巻(文藝春秋)
『草の怪』文藝春秋(文藝春秋)

「文藝春秋」平成二年一月から翌年二月まで連載された短編連作集。「削除の復元」・「ネッカー川の影」・「死者の網膜犯人像」・「隠り人」日記抄」・「モーツアルトの伯楽」・「呪術の渦巻文様」・「老公」・「夜が怖い」からなる。単行本に「削除の復元」を除く七作品が収録された。

目次

- 没後10年記念・清張忌俳句大会……………2
- 講演と対談 松本清張の旅……………4
- 展示品紹介……………5
- 探検！清張記念館……………5
- みんなの広場……………6
- 友の会活動報告……………6
- 企画展紹介「松本清張の旅」……………7
- 新企画 清張原風景「点描」……………7
- 研究誌「松本清張研究」発行……………8
- トピックス……………8

作品紹介

短編の二つ「老公」は最後の元老・西園寺公望公爵の晩年を描く。「わたし」は、西園寺が晩年隠棲していた坐漁荘の警備日誌「西園寺公爵警備沿革史」を手に入れる。かつて坐漁荘の運転手が突然罷免された件の真相を探るためだった。「わたし」は謎を追って当時の資料を集め、読み込むうちに、運転手罷免の影に秘められていた別の事件に気づく。昭和初期、次第に軍国色が強まるにつれ、元老は必要とされなくなり、西園寺が政治の表舞台にたつことも少なくなる。「わたし」は坐漁荘の二階から、ひとり興津の海を眺める老いた西園寺の孤独な背中を想う。

単行本には、ほかに六つの短編を収める。モーツアルトを見いだしたものの歴史に名を残さなかった「伯楽」を追う「モーツアルトの伯楽」、西ドイツで考古学を修める日本人留学生を描いた「ネッカー川の影」、眠れぬ夜、想いをめぐらせる男の物語「夜が怖い」など、それぞれの人生を歩んできた人物の晩景を、さまざま筆致で描き出す。

長編小説を多く遺した清張だが、短編を書くことには生涯こだわり続けた。清張は、最後の短編集となったこの本に上記のエピグラムを記した。

(学芸担当 小野 芳美)

松本清張 後10年記念

清張忌俳句大会

平成十四年十一月十五日、小倉リーセントホテルにおいて清張忌俳句大会を開催しました。

大会当日は、投句と表彰式、坪内稔典先生の「講演に百二十名の方がご出席下さり、盛況でした。

大会に先がけて八、九月に募集した事前投句の受賞作と、当日投句の受賞作、坪内先生の講演内容を二部ご紹介いたします。

事前投句集

【特別賞】

清張忌俳句大会賞

点と線つなぐ歲月清張忌
松本清張記念館賞

清張忌三万冊の蔵書の威

【赤尾 恵以選】 特選

点と線つなぐ歲月清張忌
清張忌列車が母を小さくす
清張忌白い闇より權の音

【倉田 紘文選】 特選

頼杖のための文机清張忌
飛び石に從ふ小春日和かな
地下鉄へ百の階段清張忌

【野見山 ひふみ選】 特選

清張忌三万冊の蔵書の威
石組の棚田一望曼珠沙華
短篇は黒の印象清張忌



坪内稔典氏 記念講演

「松本清張と俳句」

はじめに

俳句は私達の日常をちよとこえるための言葉です。五七五というのは小さな言葉の空間だけでも、実はそれは私達の日常とは離れたものだと、いつかきつと大事なんじゃないでしょうか。

清張作品のなかの俳句

松本清張さんの小説には、いくつか俳人を扱った小説があります。例えば「菊枕」、これは杉田久女がモデルです。それはあくまでもモデルであって、杉田久女そのものではないですね。だから「ぬい女」という名前前でできま。とてもひたむきな女の人を描いています。また橋本多佳子がモデルになっている「月光」という小説もそこに登場する俳人たちがとてもひたむきです。度をこえてひたむきといったほうがいいかもしれません。「巻頭句の女」にも共通しています。清張さんは、ひたむきさにある意味で共感して描いているんだと思うんです。

杉田久女は菊枕を作る過程を何句も詠んでいます。菊をつんで干して、それを菊枕にしていく過程が詠まれているだけでも、それは、俳句からほんなに問題は感じない。だけどそれを先生に贈ったということが問題じゃないでしょうか。僕は時々、若い女の子たちから「ママ」や「ネクタイをもらいます。それだけでも僕のかみさんは機嫌が悪い。それが菊枕ですよ。だからもらった方は困ってしまいます。そこでちょっとだけ日常をこえてしまったというか、やや過激になつてくるんだと思うんです。そういう例が杉田久女という俳人の存在だったんだと思います。俳句というのは最初に言ったように日常をこえるついでにこえていって。



ですが「月光」と題が変わっています。この小説には俳句がたくさん出てきます。三鬼がモデルと思われる不昂という登場人物の出世作として「水まくら氷湖どこかで罽に入る」がでてきます。元の作品がとも有名ですが、みんな「水枕がばり」と寒い海があるというのを思い浮かべてしまいますね。また橋本多佳子の句で「芥子ひらく髪の前までさびしき時」というのがあります。これが「髪の前まっはりふれて花弁漬す」というふうに変えられています。清張さんの俳句は俳句用語でいうと、過ぎなんですね。想いをたくさんつめていっているんですね。このように句を作り替えるという手法は、俳句の側からいうとやや不満といったかんじがします。ただ「月光」という小説は、どうしようもない男がきれいな女流俳人になんとかして近づこうとしてせまる。そのひたむきさがきつといいんだと思います。俳句のよつなあまり役に立たないといったら語弊がありますけど、さほどそれで金儲けができたりに社会的に地位が高まったりするわけじゃない、まさに遊びに近いものです。そこに純粋さがあります。そのひたむきさに対する共感が、「月光」という小説を支えているんだと思います。

さてもうひとつ、「時間の習俗」という小説は、俳人が犯罪を犯す話です。そのポイントというか一番大事なことは、地元の祭り「和布刈神事」ですね。この小説の内容にあるように、俳句の会というのは俳句をやっていることとすぐに仲間になります。かつて柴田白菜女という俳人が、殺されたことがありました。俳句をやっているという若い男の人が尋ねてきて、おうちにあげたりして親しくしていたら殺されちゃったんです。新聞に載ってニュースになったりしました。そういうところがどうも俳句にはあります。「巻頭句の女」でも、同じ雑誌に名前がでていたというので、訪ねていたりします。「月光」でも三鬼みたいな人が多佳子みたいな人のうちに四、五日泊まりこんだりします。そういうふうには俳句はそれをやっているだけでこの世界になるところがあります。それはきつと俳句の伝統だと思っんです。江戸時代などは例えば俳句があつて俳句が集まってくる俳諧自由とかいってみんな仲間になりました。特に江戸時代は身分制の社会だから俳句をつけないと、現実の身分をひきずってしまつと付き合いにくいんです。たとえば芭蕉の仲間たち

久米 英子 (山口県下関市)

山本よし子 (山口県下関市)

久米 英子 (山口県下関市)

石原 フサ (福岡県北九州市)

川口チツ子 (山口県下関市)

市丸 志郎 (福岡県北九州市)

柴野はつき (東京都目黒区)

大森照子 (福岡県北九州市)

山本よし子 (山口県下関市)

竹内美和子 (山口県萩市)

富永 壽一 (福岡県北九州市)

宮田 穂栄 「旅の時間の清張さん」

宮田 穂栄 ● エッセイスト、元中央公論社編集者

宮田氏は入社後すぐに「黒い福音」の担当となつてから、清張の晩年まで何度も取材旅行に同行されています。仕事に妥協を許さなかつた清張は、取材先でも限られた時間の中できちんと仕事を消化する一方で、折をみては〈道草〉を楽しんでいた、と語ります。その様子を「本当にのびのびとして少

年らしい清張さんだった」と回想し、「作家の過酷な生活を潤滑化するために、旅でエネルギーを蓄え、次の仕事をこなし、また次の楽しみの旅に出ている」と、仕事をする清張と、旅を楽しむ清張の両面を知る編集者ならではの講演で聴衆を惹きつけました。



講演と対談

「松本清張の旅」——編集者としての関わりから

● 平成十五年二月二十二日
● 小倉リーセントホテル

岡崎 満義 「清張さんの真正面主義」

岡崎 満義 ● ジャーナリスト、元文藝春秋編集者

清張がそれまでの対談の仕事で見せていた〈真正面主義〉を、昭和四三年のキューバへの取材旅行の際にも発揮していた、というエピソードから岡崎氏の講演は始まりました。「変化する投手のように」さまざまジャンル作品を描いた清張も、対談や取材の折には「ぐいぐいと」ワードで押して

いく「人であった、と数多くの挿話で会場を沸かせました。通訳を通さず英語で会話する姿、そしてそのために日ごろからの努力を積み重ねる様子にも〈真正面主義〉を感じたとの印象を語り、かけがえのない作家の一人であったと締めくくられました。



対 談

岡崎氏・宮田氏、そして急遽藤井館長が飛び入りで参加し、三人でおこなわれた対談は、平成元年のヨーロッパ取材旅行を中心に、編集者という立場から見た、作家・清張の印象が語られました。



「松本清張研究」三号での対談では語られなかつたエピソードやハニングに、何度も会場は沸きました。井伏鱒二と将棋を指した折の想い出や愛読者を大切にしていた姿など、打ち合わせなしで行われた対談は旅以外の話題にも及びました。苦労もあつた旅だったが、清張の人間的魅力でうち消され、今は楽しかったことばかりが胸に残っていると締めくくられました。

円本



誰でもこれまでに一度は、文学全集というものを手にとったことがあるのではないだろうか。

松本清張も、青年時代に、文学全集の世界に羽を伸ばした。

〈外国文学は新潮社から最初の世界文学全集が出たときに馴染んだ。ドストエフスキも、その機縁で読むようになったが、そのうち惹かれたのはボオであった。このような好みの私が私小説に興味をもてるはずはない。原久一郎訳のゴリキイの『夜の宿(ごん底)』をよみ、その陰惨な生活が当時の自分にひどく親近感を持たせた憶えがある。〉

〔半生の記より〕

『世界文学全集』は、大正十五年に改造社が発刊した『現代日本文学全集』に続いて、昭和二年に新潮社から刊行された。円本“の元祖”である『現代日本文学全集』は、そもそも、木村毅が改造社に企画を持ち込んだのだという。木村といえは、清張が感銘深く読んだ『小説研究十六講』の著者でもある。関東大震災後、紙不足の折、菊判五百ページ、総ルビ、二冊三円という手頃さに、予約者が殺到した。また、これら、円本“ブーム”、全集ブームは他社にも波及した。数年前に『文藝春秋』創刊で出版界を驚かせた菊池

寛も、芥川との編集による『小学生全集』を出した。当人も元祖“円本”に収録される大作家であった。昭和二年には、円本“ブーム”に対抗して岩波文庫が創刊された。さらに安価な本の登場であった。清張も、岩波文庫や春陽堂文庫をポケットに入れて、暇を見つけては読んだと述懐している。まさに清張はこうした出版界の革命的な流れにおいて読書体験をした。

しかし清張は、後年この『文学全集』に苦い思いをさせられた。『形影』に次のような一文がある。

〈昭和二年の円本らしい、日本文学全集は明治・大正・昭和の文学作品を網羅したのが何回となく各出版社から出されている。これにより三代にわたっての事蹟たる作品は湮滅することなく、多くの読者や評論家に読まれる機会を得た。しかし未だ曾てそれらの全集によつて埋もれていた作家が発掘され、高い評価を得たというためしはない。〉

中央公論社から昭和三十九年に刊行された文学全集『日本の文学』から、自分の名前が落ちたことに対する清張の憤りは激しかった。この一件が純文学へのさらなる不信と憎悪に駆り立てたに違いない。文学の隔たりなく読書を愛した少年時代の清張を思うと、少し切ない話である。

(学芸担当 柳原 暁子)

※ 参考図書

●『改造社の時代 戦前編 水島治男著(一九七

六年・図書出版社 発行

●『松本清張の仮想敵全集』『日本の文学』をめぐって 宮田 稔著(松本清張研究)第二

号 二〇〇一年・北九州市立松本清張記念館

発行)

きよしとハルコの探検! 清張記念館

1F 2F 再現家屋

“「思索と創作の城」”の巻



東京・杉並の家。丸印の部分再現している。

きよし 館内に家が入っているって大胆な展示だよねえ。

ハルコ 本当。でも、清張の作家生活をそのまま見せるにはすごい方法かも。



手にかかる負担を減らすため、斜面台を利用していた。

きよし 仕事部屋なんて、清張のエネルギーがそのまま残っていて、ここで見てるとそのうち清張が入ってきそうだ。

ハルコ 清張は執筆に、デザイナー時代から愛用していた斜面台を使っていたんですって。あそこで数々の傑作が生まれたのね。

きよし 電話や資料が、手の届く所にごちゃっと置いてあって、良く言えば「創作の世界に乗り込むコックピット」みたいなんだけど、僕の机にも似てなくもない…。

ハルコ 失礼なことを言わないの! あなたののは散らかってるだけ。掃除手伝ってあげるから、もっときちんとして。

きよし ハルコちゃん、そこまで僕のことを♡

ハルコ 勘違いしないで。私の貸した本があ部屋にあると思うと本がかわいそう。

きよし …ごめん。

書類の位置にいたるまで、生前の清張の自宅をそのままに再現した展示は圧巻。作家の時を切り取って目の前に置かれたようです。隅々まで見逃せない「思索と創作の城」は、展示1「松本清張の世界」から渡り廊下でつながっています。

みんなの広場

今回は、開館以降お寄せいただきましたアンケート8,232通(15年2月末現在)を集計しまして、「あなたの好きな清張作品」「あなたの好きな清張原作の映画」ランキングをお届けします(具体的な作品名でお答えいただいたものを対象としています)。

果たして皆さんのお気に入りの作品は何位に入っているのでしょうか。まだお読みにならなかった作品の中にもあるかもしれません。是非一度チャレンジされてみてはいかがでしょうか。

あなたの好きな清張作品(1,887票)

順位	作品名	票数	得票率
1位	点と線	518票	(27.5%)
2位	砂の器	371票	(19.7%)
3位	ゼロの焦点	111票	(5.9%)
4位	黒い画集 【内訳】黒い画集(42)・天城越え(18)・遭難(3)・坂道の家(3)・証言(1)	67票	(3.6%)
5位	或る「小倉日記」伝	66票	(3.5%)
6位	張込み	54票	(2.9%)
7位	日本の黒い霧 けものみち	50票	(2.7%)
9位	昭和史発掘	45票	(2.4%)
10位	波の塔	38票	(2.0%)

(以下票数のみ)

11位	西郷札 球形の荒野	34票	"
13位	火の路	32票	
14位	霧の旗	27票	
15位	半生の記 禁忌の連歌 【内訳】黒革の手帖(16)・渡された場面(4)・天才画の女(1)	21票	"
17位	顔	20票	
18位	時間の習俗	19票	
19位	眼の壁	16票	
20位	わるいやつら	14票	
21位	黒い福音・西海道談綺	各13票	
23位	古代史疑・黒地の絵・砂漠の塩・鬼畜	各9票	
27位	無宿人別帳・十万分の一の偶然・黄色い風土	各8票	
30位	Dの複合・迷走地図・小説帝銀事件	各7票	

33位	天保図録・別冊黒い画集【内訳】陸行水行(6)各6票	
35位	地方紙を買う女・神々の乱心・蒼い描点・菊枕・影の車【内訳】影の車(2)・突風(1)・鉢植を買う女(1)・万葉翡翠(1)各5票	
40位	熱い絹・黒の回廊・文豪・ガラスの城 黒の様式【内訳】黒の様式(2)・内海の輪(2)各4票	
45位	たづたづし・影の地帯・清張日記・かけろ絵図・父系の指・蒼ざめた礼服・草の陰刻・彩り河・高校殺人事件・北の詩人・深層海流・黒の線刻画【内訳】網(1)・渦(1)・馬を売る女(1)各3票	

あなたの好きな清張原作の映画(330票)

順位	作品名	票数	得票率
1位	砂の器	186票	(56.4%)
2位	点と線	35票	(10.6%)
3位	張込み	27票	(8.2%)
4位	天城越え	15票	(4.5%)
5位	霧の旗	14票	(4.2%)
6位	ゼロの焦点	13票	(3.9%)
7位	けものみち	9票	(2.7%)
8位	波の塔	7票	(2.1%)
9位	疑惑 鬼畜	4票	(1.2%)
		"	(")

このコーナーでは、アンケートなどでお寄せいただいた意見等をご紹介します。清張や作品に対する思い、エピソードなど何でも結構です。皆さんの「声」を是非、記念館までお寄せください。
※アンケートは館内にも置いてあります。

友の会 活動報告

●第2回 清張サロン(平成14年12月18日(水):参加者13名)

9月に初めて開催した清張サロンも今回が2回目となりました。テーマは「或る『小倉日記』伝」。冒頭に、NHK北九州放送局が制作した「名作をポケットに〜或る『小倉日記』伝」を一同鑑賞し、その後、参加者が各自の感想・意見などを出し合いました。

地元小倉を題材にした馴染み深い作品とあって、参加者の関心も高く、始終活発な意見交換がなされました。

第3回は4月中旬に実施予定です。



●関東地区文学館見学会(2月15日(土)・16日(日):参加者20名)

年1回実施している他都市文学館見学会も今回が3回目となりました。

今回は関東地区を対象として、神奈川県横浜市にある神奈川県近代文学館と大佛次郎記念館(写真)を訪問しました。

関東地区には友の会会員がたくさんいらっしゃいます。文学館訪問後には、関東在住の会員の方を交えて懇親会も行いました。(盛況でした)



会員募集中!

友の会入会のお申し込みは… TEL. 093-582-2761 松本清張記念館友の会事務局まで

企画展紹介「松本清張の旅」

企画展の開催期間を5月6日(火)まで延長いたします。皆様のお越しをお待ちしております。

■松本清張記念館 地下企画展示室



■内容

1. 未知への憧れ

少年期からサラリーマン時代まで、作家になる以前の清張にとっての「旅」について紹介します。

2. 清張作品で旅する

清張作品は日本中・世界中を舞台としています。亀嵩や能登金剛、青木ヶ原の樹海など、清張作品に登場し、一躍有名になった土地もあります。多くの読者が清張作品で見知らぬ土地への旅へと誘われました。

3. 海外取材紀行

流行作家として多忙な生活を送る合間を縫って、清張は現地におもむき、できるかぎり自分で取材を行いました。その対象は国内のみならず、世界各地におよびました。いつでも「作家」でありつづけた清張の一側面を紹介します。

4. 行動する作家

清張は社会的意義を持つ活動でも業績を残しています。様々な〈壁〉を突き破り、スケールの大ききで世間を驚かせました。作家の旅は、原稿用紙の上だけではなく、書斎の外でも結実をみせました。

5. こころの旅

少年時代から旅に憧れを持ちつづけた清張の長年の夢は、日本中の自分の作品の舞台を上空から眺める、というものでした。晩年、中江利忠氏(当時朝日新聞社長)の協力で実現したとき、セスキナ機内で青年のように喜んだそうです。カメラのファインダーを覗く清張の胸中には、どんな思いが去来していたのでしょうか。



関門橋 橋脚付近が下関・壇ノ浦、対岸は門司・和布刈

「次の私の記憶は、小倉から下関に移る。今は下関から長府に至る間は電車が通じているが、当時は海岸沿いに細い街道があるだけだった。現在火ノ山という山にケールカーがついて展望台ができていて、その場所が旧壇ノ浦といって平家滅亡の旧蹟地になっている。そこに一群の家が六、七軒街道に並んで建っていた。裏はすぐ海になっているので、家の裏の半分は石垣からみ出て海に打った杭の上に載っていた。」

新シリーズ
第1回

清張原風景

点描

壇ノ浦

私の家は下関から長府に向って街道から二軒目の二階屋だった。」
松本清張が「半生の記」でたどった下関時代の冒頭部分である。清張は、生後間もない明治四十三年から大正六年までの間を下関で過ごしている。
下関と九州・門司を隔てる関門海峡は「歴史を運ぶ水路」ともいわれ、多くの歴史の舞台となった。一一八五年、源平合戦の最後の戦いで平家が敗れ去ったのは、壇ノ浦沖の海戦であった。

清張が、
小倉の寺に預けたままになつて
祖母の骨壺代りの位牌を引き取るために小倉を訪れ、
下関に立ち寄ったのは昭和五十四年十二月のことである。下関では、壇ノ浦とその後の住居となる田中町を訪れている。
現在壇ノ浦にある「みもすそ川公園」には清張の文学碑がたっている。



みもすそ川公園の文学碑

(中野 吉明)

研究誌「松本清張研究」第四号発行 定価二〇〇円



年一回発行の「松本清張研究」は第一線の研究者を網羅し、つねに新鮮な特集を組んでいます。今回の特集は「清張ミステリーの〈現在〉」です。研究論文のほか、作家の森村誠一氏や文芸評論家の郷原宏氏らによる座談会や、現在活躍中の作家の皆さんからのアンケートの回答など内容も盛りだくさんです。

巻頭 ミステリー工房の秘密 阿刀田 高

特集 清張ミステリーの〈現在〉

〈座談会〉「松本清張の時代に生きて」

森村誠一、郷原宏、山田有策(司会)

風景の複合 川本 三郎

〈赤い罫〉の群れる海——『蒼い描点』と『天才画の女』 郷原 宏

「悪」へと反転する「正義」——『眼の壁』と『けものみち』を中心に 小笠原賢二

明子はなぜ殺されたか——『表象詩人』論 平岡 敏夫

古びることのない新しさ 山前 譲

再録・推理小説の文章 松本 清張

黒い画集をめぐる 他、三論文

「遭難」の内と外——『週刊朝日』と『黒い画集』 藤井 淑禎

中年男の六〇年前後——松本清張「坂道の家」を読む 大井田義彰

作家アンケート「松本清張 再発見のために」 他、二論文

森村誠一、宮部みゆき、山本一丸、佐野洋、城山三郎、和久峻三、西村京太郎、他

論文「行者神髓」論——〈物書きの魔〉について 天沢退二郎

松本清張記念館 入館者50万人

平成十四年十一月十六日、開館以来五十万人目の入館者をお迎えしました。五十万人目の入館者は、熊本県菊池郡大津町から旅行で立ち寄った本山玲子さんと、藤井館長から認定証と記念品が贈られました。本山さんは「びっくりしました。これを機会にもっと清張



記念のくす玉を割る本山さん(左)と藤井館長

作品を読んでいきたい」と感想を述べられました。記念館では、入館者五十万人を記念して、オリジナルグッズの抽選会や講演会、映画上映などの記念事業を実施しました。

松本清張研究会 第7回 研究発表会

第七回研究発表会が十二月八日、京都の立命館大学で開催されました。東京以外では二回目の開催ですが、多数の一般参加もあり会場は満員でした。国際日本文化研究センター教授の井上章一氏が「清張の歴史とアカデミシャン」という題目で講演された後、会員の渋谷香織氏(駒沢女子大学助教授)による『清張小説における恋愛観——波の塔をめぐる』の発表が行われました。



●編集後記●
 今年は、清張が芥川賞受賞を機に、小倉を離れ、上京してから五十年になります。今回から新シリーズとして「清張原風景点描」と題し、清張の小倉時代を紹介します。
 〓期待ください。
 (中野 吉明)



編集・発行
松本清張記念館
 〒803-0813
 北九州市小倉北区城内2番3号
 TEL 093 (582) 2761
 FAX 093 (562) 2303
 http://www.kid.ne.jp/seicho
 制作 (株)エディックス

- 開館時間 午前9:30～午後6:00 (入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日～12月31日)
- 観覧料 一般/500円(400円) 中・高生/300円(240円) 小学生/200円(160円) ()は30人以上の団体
- アクセス J R: 小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分
 バス: 小倉北警察署前/NHK前下車
 車: 北九州都市高速、大手町ランプより5分

